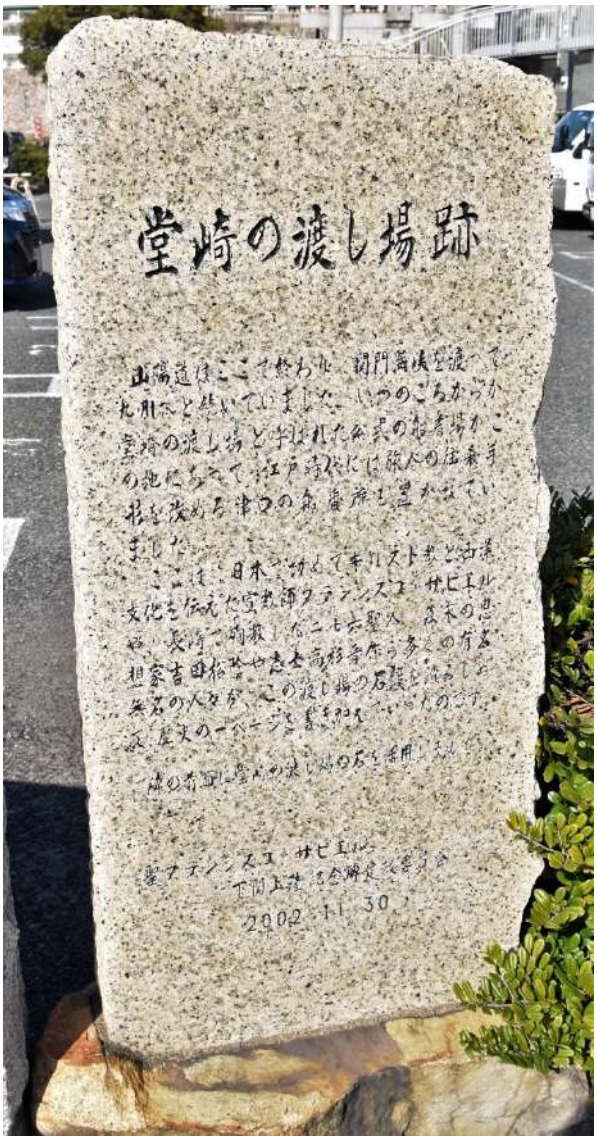
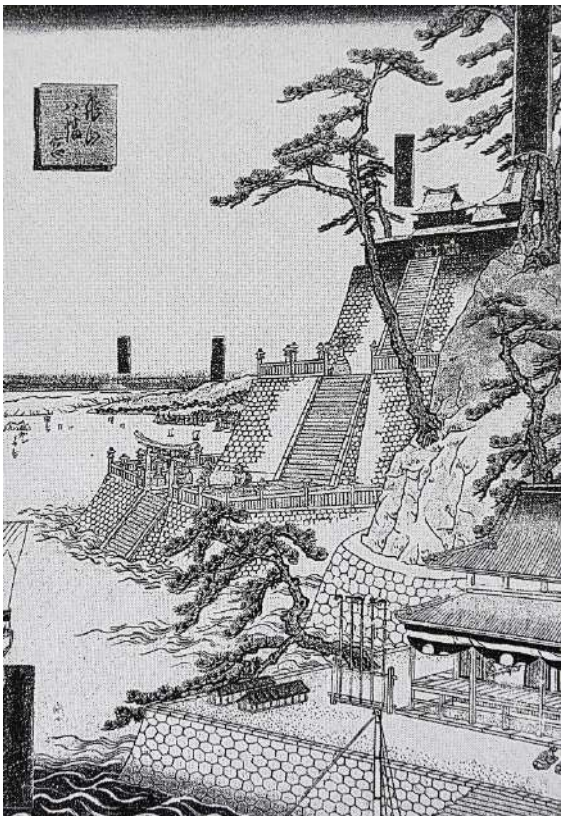
海防の要衝　堂崎の渡し





　亀山八幡宮の高台は、海の中に突き出た島のような地形で、東側に九州への渡し場があり「堂崎の渡し」と呼ばれていました。いつの頃からかは明らかではありませんが、15 世紀の大内時代の「大内家壁書」という文書に渡し賃などが書かれています。
　海峡は交通の要であり、海防の要衝でもあったこの地には、江戸時代には、「津口の番所」が設けられ、常時役人が詰めていました。